

二〇八九番

天地あめつちの 初めはじの時ときゆ 天あまの川がは い向むかひ居をりて
 一年ひととせに 二度ふたたびあ逢あはぬ 妻つまこひ恋こひに 物もの思おもふ人ひと 天あまの川がは
 安やすの川かはら原はらの あり通がよふ 出いでの渡わたりに そほ舟ぶねの
 艦ともにも舳へにも 舟ふなよそ装よそひ ま梶かぢしじ貫ぬき はたすす
 き 本葉もとはもそよに 秋風あきかぜの 吹ふき来くる夕よひに 天あまの
 川がは 白波しらなみしのぎ 落おち激たぎつ 早瀬はやせわた渡わたりて 若草わかぐさの
 妻つまが手てまくと 大舟おほぶねの 思おもひ頼たのみて 漕こぎ来くらむ
 その夫つまの子こが あらたまの 年としの緒をなが長ながく 思おもひ来こ
 し 恋こひつ尽つくすらむ 七月ふみづきの 七日なぬかの夕よひは 我われも悲かな
 しも

反歌

二〇九〇番

高麗錦こびだしき 紐解ひもとき交かはし 天人あめひとの 妻問つまどふ夕よひぞ 我われ
 も思しはむ

二〇九一番

彦星ひこほしの 川瀬かはせを渡わたる さ小舟せがねの え行ゆきて泊はてむ
 川津かはづし思おもほゆ